

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年11月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694300015
法人名	(株)スローライフ
事業所名	グループホーム 絆
所在地	南九州市川辺町高田1238-4 (電話) 0993-58-3838
自己評価作成日	平成29年10月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年10月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームを開設して10年目になりますが、昨年は台風16号接近で施設が床下浸水という被害を被りました。利用者は前日の避難準備情報で全員が避難をしており人的被害は免れました。汚水、汚泥の後片付けは大変でしたが、休みの職員に緊急連絡網で連絡して皆さん駆けつけてくださり、また、地域住民、市議会議員の方が南九州市内はどこも大変な中を手伝ってくださり、その日の午後2時には施設に帰り通常の生活を送ることができました。本当にありがたいことと感じて、これからも基本に忠実にそして、地域との連携、他業種との協働、連携を大事に運営を進めていかなければいけないと思う出来事でした。何事も知らずに3時のお茶を飲む利用者の姿にほっとしました。職員も地域も大変な思いをしましたが、この災害を乗り越えたことにより、また、一歩を進めた気がします。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## (事業所の優れている点)

- ・職員は、日頃から防災意識が高く、「お天気アプリ」などを活用したり防災情報を収集し関係機関と連絡、連携を図りながら早めに避難をおこなうなど対応している。ホームは、河川近くに立地しているため地域の協力体制があり、水害や火災の避難訓練を実施している。
- ・理念は、6年前に見直しされ、地域とのつながりを大切にするということを掲げ天候の良い日は、散歩がてら地域の方々と交流したり行事計画を作成し、外出支援を受けながらなるべく地域交流ができるよう支援されている。
- ・地域とは、総会への参加や地域の行事(夏祭り・小学校の運動会)に参加したり、小学生の体験学習受け入れを通じて高齢者との関わり方を伝えたり、介護相談を受けたりするなど日常的に交流している。  
また、運営推進会議では地域やホームの課題をともに考え解決策を検討するなど活発な意見交換を実施しサービスの向上に活かしている。

## (事業所の課題点)

- ・重度化や終末期についての方針を説明し同意を得ているが、段階ごとに家族の意志を文書で確認した上で、主治医や関係機関などの意向を踏まえ対応方針の共有を図っていくことに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員の意見を元に作成しなおした理念を毎朝の申し送り時のはじめに全員で唱和して再確認、実践につなげている。	理念は、6年前地域密着を意識し見直し、朝礼時の申し送りに理念に沿ったサービスが提供されているか確認している。地域とつながりを大切に、役割、趣味活動、居心地よい生活の実現や尊厳を大切にするといった理念を共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の自治会に加入、地域の行事（文化祭、敬老会等）、小学生の訪問の受け入れをできる範囲で行っている	日常の散歩やゲートボールの観戦、自治会の行事・活動へ参加し独居高齢者のサポートや地域と相互に協力する関係性が構築されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	小学生の体験学習時、子供たちにわかるよう高齢者との関わり方を伝えたり、地域の介護相談は常時受けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議のときに地域の方、行政に相談をしてサービス向上、問題解決に活かしている	家族や地域の方々の理解や協力関係が密にあり、ホームに直面した課題などメンバーで意見交換し、改善に向けて話し合われている。管理者は、家族の参加が見込めるよう取組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて相談、連絡を気軽に行っている	市担当者には日頃から、相談や指導、助言などを頂きながら協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターから認知症カフェの誘いを受けたり、市から研修会の案内があり職員が交代で参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全く身体拘束を行っていない状態ではないが玄関施錠等しなければいけないときは家族に同意書をもっている	身体拘束を実施している事例があるが、定期的に改善策について検討した上で、身体拘束による弊害について正しく理解しできるだけ拘束することがないよう検討している。不穏行動などがある方などは、専門医と相談し内服コントロールにて行動の安定化を図ったり安全を最優先に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修を行い虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解して必要性があるときは活用できるよう支援する		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結、改定、解約時には内容の確認のため必ず読み合わせを行い理解、納得を図っている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年一回の食事会時、面会時、病院受診時、受診に付き添わなかったら受診後の状態報告時にと要望、意見を聞いて反映させている</p>	<p>利用者や家族からは、受診時に直接意見・要望を聞き取ることが多く、面談時忌憚なく話ができるよう雰囲気作りに努めている。また、年1回絆の日が家族との交流の機会になっている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の定例会、業務改善会議、申し送り時に出た意見、提案を運営に反映させている</p>	<p>管理者は、年1回職員と面談し、公私におよぶ相談ごとや意見、提案を聞くようにしている。また、必要に応じて夜間に業務改善会議を開催し、運営に関する話し合いを職員全員で実施している。最近、業務改善ノートを作成したり、パート職の調理業務について見直しをした。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の職員のいろいろな状況を踏まえてそれぞれが働きやすく向上心を持って働くことができるよう努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の職員が施設内外の研修に参加できる機会を確保できるよう勤務シフトを調整している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協議会に加入して研修会、交流会に参加してサービスの向上に取り組んでいる</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時には本人の生活状況を把握したうえで本人の要望に耳を傾け安心できる関係作りに努めている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所して初期の時期は家族への連絡を密に行い情報をもらい、関係づくりに努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の要望から今必要な支援があればそのサービス利用を受けることができるよう対応に努めている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活全般においてすべての事柄を助け合い利用者のできることはお願いしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の「絆便り」において毎日の生活の様子を伝えて情報を提供することにより関係が保たれるよう配慮している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のアセスメント情報をもとに馴染みの関係が続けられるよう支援に努めている	小学校や女学校時代の同級生の面会もあるが年々面会も厳しい状態になってきている。希望に応じて職員が墓参りに同行、手紙の代筆や代読、携帯電話で家族との関係継続、面会時はゆっくりと歓談していただくようお茶を勧めたりしてくつろいでいただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう起きた出来事をケース記録に記入し全職員で共有して支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても相談に応じること説明しており利用者、家族が困らないよう相談、支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での本人の言葉や行動により本人の希望、意向を把握できるように努めている	本人の思いは、申し送りやカンファレンスの中で情報交換したり、生活歴やアセスメントを参考にして、思いに触れ意向を把握し家族の情報も参考に本人本位にサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に全職員でアセスメントを回覧、ケアの方針を共有してからケアを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方はどんな生活をしたいのか？を把握して有する力を持ち続けられるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者で話し合い作成したケアプランに沿ってケアを行い、3か月に一回のモニタリングによる見直しを行っている	入居時は、フェイスシートを作成しアセスメントして、意向については本人の言葉を書くようにしている。意志表出が困難な方については、家族、職員間で共通認識を図り、本人の思いを汲み取るようにしている。受診時、主治医を交え担当者会議を開催するなど工夫し遠方の家族には電話で説明して、帰省時に詳細にわたり同意をいただいている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を細かくケース記録に記入して職員間で共有、現場でのケア、ケアプランの作成に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズを真摯にとらえてできる限り柔軟な支援に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係は欠かすことができず、地域からの企画で「音楽を楽しむ会」を開催したときはそれを実感した		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者、家族の希望をもとに適切な医療を受けられるよう支援するとともにできる限り家族にも同行していただき情報を共有している	本人が希望するかかりつけ医となっており、受診は家族の協力をいただきながら職員が支援している。認知症専門医との連携もあり、早期発見に努め早めに受診していただき重度化することがないように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員が常駐しており健康管理、医療的な相談を行い指示により適切な受診、看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院したら入院中の病院からの病状説明時には必ず同行して立ち合い、情報交換に努めている。また、病院の相談員との関係づくりを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期についての施設の方針を説明、看取りの指針も説明しているが、段階的に家族と話し合いを重ねて支援に努めている	看取り指針があり、説明の上同意書を取っているが、重度化した場合については、明文化しておらず口頭による説明で終始しているため、管理者は、重度化した場合の指針についても文書化したいと考えている。ホームは、医療連携体制があり、早期から適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。	早期から関係者全体の方針の統一化を図り、重度化した場合の方針について明文化した上で、重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明がおこなえるよう資料の整備が求められる。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故発生時、急変時の対応、応急手当の方法を看護師から学んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昨年は実際に避難を行いその夜に床下浸水の災害に見舞われた。願わずして避難、災害の後始末を全職員で経験、地域から協力体制をいただき、災害時の恐ろしさに反省点を見つけた</p>	<p>河川氾濫による水害の被害を受けた体験を活かし、お天気アプリで情報をキャッチし早めに避難を検討するなどしている。消防団の協力体制や、地域住民にも緊急連絡が通報されるしくみがあり、防災意識が高い。レトルト食品、水などの備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の一人一人が自分を振り返り理解を深められるような研修、事例検討を行い、努めている	居室は、必要以外は閉めており入室の際は、必ずノックしてから訪室している。理念に利用者の尊厳を掲げており、研修会、事例検討会などで自己研鑽している。管理者は、職員が不適切な言葉使いや対応をすることがないようにマンツーマンにて指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の自己決定を待てるよう働きかけ、介護者が決めてしまわないよう配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿って毎日を送れるよう一人一人のペースを大切に急かすことのないよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	お風呂の準備の時、好きな衣類を選んだり、職員との買い物に出かけたりできるよう支援を行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設では食の楽しみを重要と捉え、季節感のある食卓をみんなで囲めるよう配慮、準備、片付けを一緒に行っている	グループごとに食事が楽しめるよう配慮している。能力に応じた準備、片付けがあり、菜園や差し入れを活用し旬の野菜を料理に取り入れている。個別に外食を楽しんだり、おやつ作りを楽しむなど食への意欲が途切れることがないように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事摂取量を記録しているが、無理強いしないで確保できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態に応じた口腔ケアの習慣づけを支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記入し利用者の状態に合わせた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。布下着も多く、テープ式おむつの質を検討し、気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指導の下水分補給、外の散歩等運動への意識を持ち便秘予防等の予防に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は設定してあるがいつでも入浴できるよう環境を整えて支援を行っている	入浴介助は、同性介助にて支援しているが、タオルの代わりにガーゼを使用したり、個別に入浴方法を検討するなどして一人ひとりのタイミングや希望、必要性に応じて入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が安心して休息、安眠できるよう環境を整えて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬の内容の一覧表のファイルを共有して支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者が施設の中で役割を持って生活を楽しめるようできる限りの支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力もいただきながら、施設内だけの生活にならないよう配慮している。また、天気の良い日はほぼ毎日散歩に出かけしている	天候を見ながら戸外への散歩が日課になっており入居者の楽しみになっている。職員は、食事、買い物、季節の花見など計画的な外出支援をしている。また、地域行事に参加したり、家族に協力をいただきながら外出できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の了解を得て外出時の買い物支払いを本人にお任せしている方もいる</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>遠方の娘さんとの会話の為に本人の携帯を施設で充電している方がおり、時々、話しておられる</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に施設内の環境保全に努めており居心地よく過ごせるよう心掛けている</p>	<p>玄関を開けるとリビング兼食堂が一望に広がり、長ソファがあちらこちらに置いてあって、テレビを観たり会話するなど思い思いに過ごせるよう工夫がしてある。また、音楽教室で活用するピアノが設置してあったり、対面キッチンから調理する匂いや音、職員とのやりとりが伺える家庭的な雰囲気の空間である。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを配置してリラックスして利用者同士で語る姿が見られる。また、ホールの食事用テーブルの椅子の位置は利用者同士のトラブルがあるときは配置換えを行っている</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスはセットしているが本人の使い慣れた、小箆箆を持ってきたりと持ち込み可能である	居室は、フローリングと畳仕様で手すりが設置してある。こだわりの品やミニタンス、合掌人形、紬のバックなど使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	いつも、利用者の状態、症状は流動的であり、その時々安全な環境に配慮している		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない